

## テネシー州での留学生活

Vanderbilt University Medical Center,  
Division of Nephrology and Hypertension

菅原 翔

(滋賀医科大学内科学講座糖尿病内分泌・腎臓内科)

私は滋賀医科大学糖尿病内分泌・腎臓内科から、2021年7月よりアメリカのテネシー州ナッシュビルにある Vanderbilt University Medical Center の腎臓内科学講座に留学し研究に従事した生活を送らせていただいています。今回、上原記念生命科学財団より海外留学助成を頂き、このように寄稿させていただく機会を得ました。温かいご支援に感謝申し上げます。

ナッシュビルはアメリカ南部テネシー州の州都で、カントリーミュージックの聖地であり、別名ミュージックシティとも呼ばれているそうです。ダウンタウンには昼間でも紫煙くすぶるライブハウスが軒を連ね、陽キャたちが闊歩するクレイジーな一角もありますが、基本的にはのどかでとても住みやすい地域です。サザンホスピタリティという言葉があり、南部の人は親切でおもてなしの心に溢れている、と言われていています。私はこちらに来るまで半信半疑でしたが、実際来てみると皆さん本当に親切です。また、日系企業も多く進出しており、駐在の日本人の方も多いです。妻、娘と一緒に海外生活を送っているのですが、米人、日本人を問わず多くの方に優しくしてもらって家族ともども生活できています。

所属ラボはPIのCraig Brooks博士が5年前に立ち上げ、現在全員合わせて3名の小規模なラボで、雑談からシームレスに研究のディスカッションにつながっていくような、家族的な雰囲気の中で研究を進めています。日本では腎臓の近位尿細管における栄養代謝に関連する研究を行っていましたが、こちらでは主に急性腎障害から慢性腎不全へと至る過程について、細胞周期関連蛋白に焦点を当てて検討しています。日々マウスをハンドリングしつつ、組織を染色し、理想の画像を求めて顕微鏡室に籠る、という正に私が夢見ていた生活ができおり幸せです。Craigはイメージングに関しては一家言お持ちで、彼を納得させる画像を撮るのはなかなか大変なのですが、南部人らしい面倒見の良さを兼ね揃えており、うまくいかなかった場合でも必ず一緒に手を動かし解決策を提示してくれます。自分の強みに関しては職人気質ですが、問題解決の手法は柔軟かつ現実的、コスト意識は高いがグラントを器用に書き資金を獲得してくる、という彼が研究者としてサバイブしていく中で培ったであろう能力は非常に勉強になります。

もともとこの留学は2020年に開始する予定でしたが、パンデミックにより1年延期させていただきました。その間、感染者数に一喜一憂し、ビザのポリシー変更にはハラハラし、本

当に渡米できるのかなと不安も多かったですが、予定の変更に柔軟に対応して下さった上原記念生命科学財団の皆様のおかげでこの留学を実現することができました。財団の皆様には感謝しかありません。この経験を生かして今後生命科学の発展に少しでも貢献できたらと思います。

また、コロナ禍で皆が大変な中、私の留学を後押しして下さった滋賀医科大学糖尿病内分泌・腎臓内科の前川聡教授、医局の皆様、そしてついて来てくれた家族に心より感謝申し上げます。



夜のナッシュビルダウンタウン